作業療法科

科長　仲川 健

はじめに

2022 年は、7 名体制で運用を開始し 1 月にグループ内の施設間異動を 1 名実施。4 月には新人職員 1 名を迎え 8 名体制で運用。今年は、育休復帰者と産前休暇者がそれぞれ 1 名、就業形態の変更として正職員からパート職員への移行者が 1 名おり 12 月末の人員体制は 8 名で終えることができた。

新型コロナウイルスと向き合い 3 年目を迎える中、家族の体調不良や濃厚接触者での自宅待機スタッフが多く続いている。作業療法科では継続してスタッフ 1 人 1 日あたりの実施単位数を 18 単位以上と目標を設定し取り組み実施した。また、外来リハビリの需要に伴い人員体制の強化を実施した。

実績

2022 年 1 月～12 月の年間総単位数は、24,635 単位。月別平均単位数は、2,052 単位であった。（図 1）入院における OT 処方延べ件数は、113 件。前年と比べ 24 件減少となり、月平均としては 9.4 件の処方数であった。外来リハビリ実施者延べ件数は、2,426 件 5054 単位。前年と比べ件数は 320 件、単位数は 713 単位の増加。（図 2）昨年同様に新型コロナウイルスの影響により入院期間の短縮、外来への早期移行傾向がみられた。年代別内訳では、80 代が 37 例。70 代が 31 例。90 代が 21 例。75 歳以上の後期高齢者が 28 名。85 歳以上の超高齢者が 44 名と 75 歳以上は、処方延べ件数の約 1/2 以上を占めていた。（図 3）

病棟別の一般・回復期病棟におけるリハビリ実施者数は、延べ 4,855 名。単位数は、12,172 単位。（図 4）地域包括ケア病棟におけるリハビリ実施者数は、延べ 2,962 名。単位数は、7,341 単位。（図 5）患者一人あたりの月平均単位数（作業療法のみ）では、一般・回復期病棟は 2.5 単位。地域包括ケア病棟では 2.4 単位であった。

疾患別リハビリでは、運動器疾患が 98%。（図 6）処方内訳は、上腕骨近位端骨折、橈骨遠位端骨折等の上肢骨折が 42 例の 37%。大腿骨頸部骨折・転子部骨折等の下肢骨折が 42 例の 37%。次いで腰椎圧迫骨折や脊椎・骨盤骨折等が 16 例の 14%であった。肩腱板断裂や脱臼骨折等の筋腱靭帯損傷が 8 例の 7%であった。（図 7）

2023 年方針

診療報酬改定に伴う病棟再編成に対して整形だけでなく様々な疾患に対応できるよう質の向上、患者サービスの向上を目指しスタッフの育成を実施していく。また、昨年に引き続き外来リハビリへの需要の高さが継続していることより状況に応じた柔軟な体制を展開できるよう人員を整えていく。

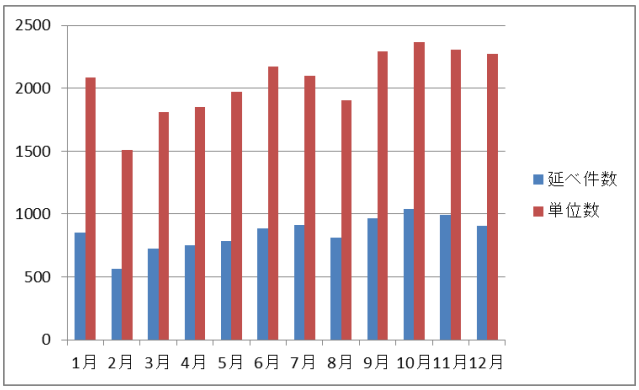

図１月別実施単位数

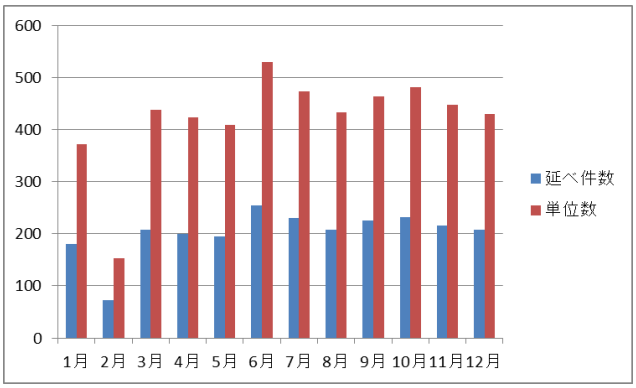

図２　外来実施者数と単位数

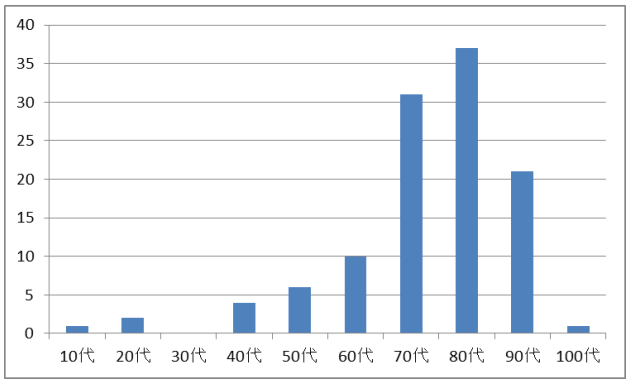

図３　年代別

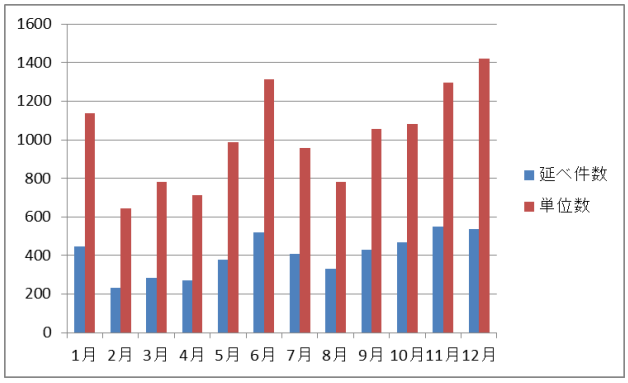

図４　一般・回復期病棟実施者数と単位数

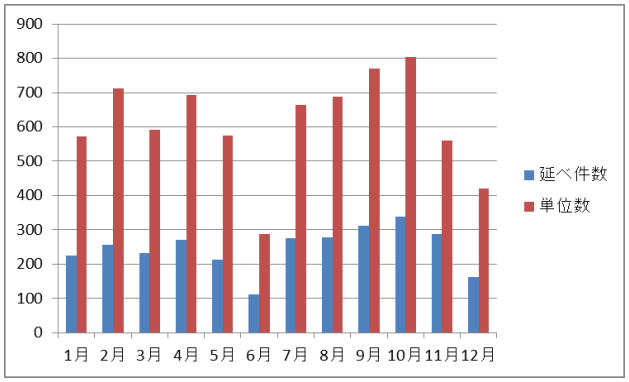

図５　地域包括ケア病棟実施者数と単位数

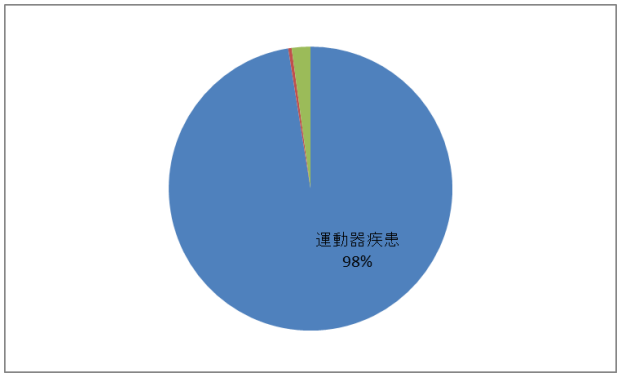

図６　疾患別リハビリ

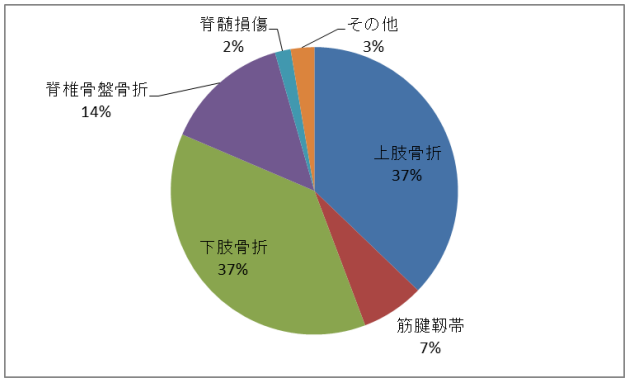

図７　処方内訳